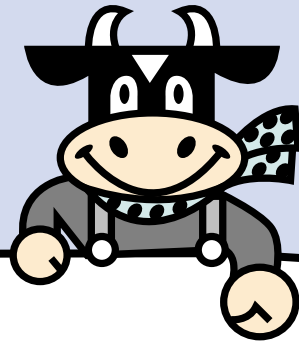




ワンポイント・アドバイス



黄色ブドウ球菌(SA)乳房炎 〜菌の特徴と治療〜

今回は黄色ブドウ球菌(SA)による乳房炎を例にして、乳房炎治療についてご説明いたします。まずは「敵を知る」という事で菌の特徴をいくつか挙げたいと思います。

今回は黄色ブドウ球菌(SA)による乳房炎を例にして、乳房炎治療についてご説明いたします。まずは「敵を知る」という事で菌の特徴をいくつか挙げたいと思います。

今回は黄色ブドウ球菌(SA)による乳房炎を例にして、乳房炎治療についてご説明いたします。まずは「敵を知る」という事で菌の特徴をいくつか挙げたいと思います。

今回は黄色ブドウ球菌(SA)による乳房炎を例にして、乳房炎治療についてご説明いたします。まずは「敵を知る」という事で菌の特徴をいくつか挙げたいと思います。

今回は黄色ブドウ球菌(SA)による乳房炎を例にして、乳房炎治療についてご説明いたします。まずは「敵を知る」という事で菌の特徴をいくつか挙げたいと思います。

治療法

さてこのように治療したらよいのでしょうか。乳房炎は治療、淘汰(盲乳化)、自然治癒以外に排除できません。治療の主役は抗生物質で、感受性のある抗生物質と菌が出会うことで初めて効果を発揮します。よって感受性のある抗生物質が届きやすい状況で使用することが大切になります。そのためにも細菌検査は必ず行うべきでしょう。

一つの方法として乾乳期治療があります。乾乳期は泌乳がなく、乳腺が退縮、再生

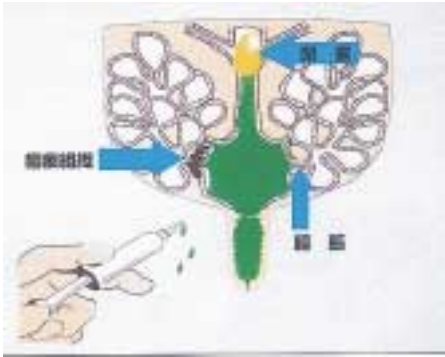


図1

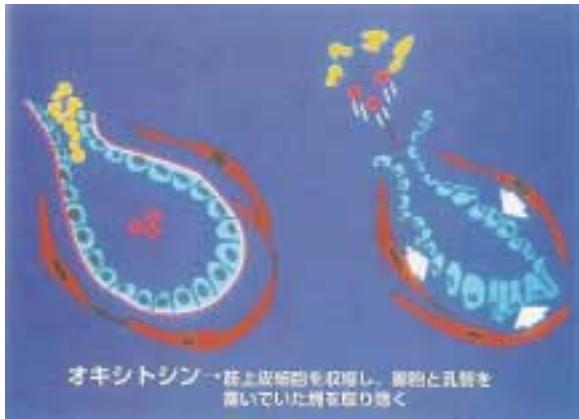


図2

する期間であるため抗生物質を邪魔する図1のような要因が少なく、乾乳軟膏・注射により高い治療効果が期待できます。近年タイロシンによる治療が注目されていますが、獣医師に相談して綿密なプログラムのもと実行すべきです。泌乳期治療は注射薬と軟膏の併用が勧められます。早期発見・早期治療が理想です。さらに効果を上げるためには、頻回搾乳。それが出来ないときにはオキシトシンできつち搾る方法があります。図2のように奥にある菌や、フツで詰まった部分を

押し出して外に出させる効果が期待できます。その他にもいくつか方法がありますが、やはり獣医師に相談して自分の牛群にあった方法を選択すべきです。

SAの場合初回治療で完治は五分五分、再発や産次を重ねた牛ではもっと治療率は下がります。完治が難しい乳房炎の一つです。まずはSA牛の存在を知ることが重要です。それには細菌検査と検査結果の管理が必要です。また再発しやすい特徴からSA乳房炎歴のある牛は最後の方に搾るのが無難です。五分五分以下の確率で面倒な治療を何回も行うよりも、他の牛に伝染させないような手段を選ぶほうがはるかに楽ではないでしょうか。獣医師と酪農家の相互理解の中でSA乳房炎をコントロールできれば幸いです。